

「健やか高松21」見直しの概要

1 計画の位置づけ

「健やか高松21」計画は、「たかまつ21世紀プラン（新・高松市総合計画）」の基本構想および基本計画を上位計画とし、本市の都市像「笑顔あふれる 人にやさしいまち・高松」の実現を目指した重点施策「活力ある高齢社会づくりプロジェクト」を構成する施策「生涯を通じた健康づくり」を推進し、具体化するものです。

また、国が策定した「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」の地方計画であり、健康増進法第8条第2項に基づく「健康増進計画」であり、市民の自発的な健康づくりを進めるための運動の指針として、市民を始め、家庭、地域、学校、企業、行政および関係機関・団体が一体となって取り組む健康づくりの行動計画です。

2 計画の期間

平成14年（2002年）度を初年度とし、平成23年（2011年）度を目標年度とする10年間を計画期間とし、中間年である平成18年度に中間評価と内容の見直しを行っています。

3 数値目標の見直し

平成17年10月1日現在で満18歳以上の高松市民（旧塩江町住民を含む。）2,500人、平成18年2月1日現在で満18歳以上の高松市民（旧牟礼町、庵治町、香川町、香南町および国分寺町住民に限る。）600人、合計3,100人を対象に実施した「健康づくりに関する市民意識調査」の有効回答（1,484人）および県民栄養調査などのその他の資料から得たデータに基づき、健康づくりの数値目標を見直しています。

4 主な見直しのポイント

生活習慣病予防対策の推進

近年、中高年の男性を中心に、肥満者の割合が増加傾向にありますが、肥満者の多くが、糖尿病、高血圧、高脂血症などの危険因子を複数併せ持っており、危険因子が重なるほど心疾患や脳血管疾患を発症する危険が増大します。そこで、生活習慣病の予防対策として、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）という概念を導入し、その予備軍に対し、効果的な保健指導の徹底に努めることが重要となります。

・第4章 健康づくりの目標等の設定（p30）

「健康づくりの課題」の「ライフスタイルの改善による生活習慣病の予防」の項

目に、メタボリックシンドロームの概念を普及し、生活習慣病の発症・重症化を予防することの大切さを追加しています。

・第5章 健康づくりの目標・生活習慣病（p48,57～）

「共にめざすもの」に、メタボリックシンドロームの概念を市民に普及し、理解してもらい、市民一人ひとりが生活習慣を改善して、生活習慣病の発症・重症化を予防する啓発を行うことを追加しています。

「主な指標」に、「基本健康診査において高血圧を指摘された者の割合の減少」および「メタボリックシンドロームを知っている人の割合の増加」を追加しています。

食育の推進

健康寿命の延伸や食品の安全性の信頼確保などの観点から、食育の重要性が高まっており、国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むための食育を総合的、計画的に推進するため、平成17年6月に「食育基本法」が制定され、平成18年3月には国の「食育推進基本計画」が策定されました。市としては、食育の推進に関する施策についての計画を作成するよう努めることとされていることから、この「健やか高松21」計画に基づき、食育を推進します。

・第4章 健康づくりの目標等の設定（p30）

肥満や生活習慣病の増加は、食をめぐる様々な問題が起因となっていることから、市民一人ひとりが自分や家族、社会全体の問題として食育に関心をもつことや、社会をあげて食育に取り組むことが重要であるため、「健康づくりの課題」に追加しています。

・第5章 健康づくりの目標・食生活（p37,51～）

「わたしのめざすもの」に、牛乳・乳製品を摂取すること、野菜をたっぷり食べること、食育に関心を持つことなどを追加しています。

「共にめざすもの」に、食に関する情報の提供、食生活指針や食事バランスガイドの普及、健康づくり協力店の増加、食に関する関係団体との連携を図り、食育を推進することなどを追加しています。

「主な指標」に、「朝食の欠食が見られる幼児の割合の減少」、「食育に関心を持っている人の割合の増加」、「健康づくり協力店の登録数の増加」などを追加しています。

歯の健康の保持

・第5章 健康づくりの目標・歯の健康（p41）

「わたしのめざすもの」に、歯や歯ぐきの機能の維持・向上を図り、一生自分の

歯でおいしく食べることなどを追加しています。

「共にめざすもの」に、歯科健診の受診率の向上に努めることなどを追加しています。

介護予防の推進

・第4章 健康づくりの目標等の設定（p30）

介護を受ける事態になることを予防し、高齢者が住み慣れた場所で、いきいきと暮らすために、保健、医療、福祉などの面から介護予防対策を推進することが必要であるため、「健康づくりの課題」に追加しています。